

教育実習事前指導の在り方について

－文学部教職課程，旧課程の記録－

堀田 悟史（龍谷大学文学部）

須原 洋次（龍谷大学文学部）

I 本稿の目的

文部科学省から教職課程の認可を受けている大学では、2019年度入学生から現行法に基づくカリキュラムが展開されている。一般的には2021年度卒業（2018年度入学）の学生が旧法に基づく教職課程（以下、旧課程と記す）を履修した最後の学生になる。したがって2020年度は、翌年度に教育実習を行う学生に対して旧課程で教育実習事前指導（以下、事前指導と記す）を展開する最後の年度になった。

文学部における旧課程での事前指導では様々な説明会を開き、さらに課題を与え、学生が実習生としてさらに卒業後に教員として教壇に立つ自覚を高めるとともに、卒業後の人生をよりよいものにしてもらいたいという願いのもと、教員という仕事に対する自らの適不適も考えさせてきた。稿者2名は、旧課程に於ける文学部の事前指導が学生にとって多くの点で利益のあるものであったと考えている。本稿の目的は、2018年度入学生——すなわち、旧課程で事前指導を受けた最後の学生——が卒業を迎える今年度とその記録を留めておき、さらに学修に対する学生の意識を確認することにある。

さて、小稿に記すにあたり、次のことを述べ添えておく。

1. 事前指導の具体的な内容については、稿者の一人の堀田が本学着任（2013）年度以前に既に行われていたことを大部分踏襲している。但し、課題の内容や展開の方法等については手を加えている。
2. 小稿では大宮学舎での授業展開を述べるが、深草学舎でも課題内容を変えてほぼ同様の事前指導が行われていたと承知している。

Ⅱ 事前指導の内容と展開, その意図について ——文学部特有の事情を含めて——

事前指導の内容や展開する時期および課題は、表1の通りである。以下、表1のア～サの項目についてそれぞれの展開の詳細や意図を述べる。

なお、ケ「龍谷大学校友会職域支部『教龍会』」の参加については、2020年度はコロナ感染拡大の混乱のなか自由参加としたため、後述のアンケート調査の項目には入れていない。そのため、ケとコ・サは順序を入れ替えて記している。

1 ア・イ・ウ「教育実習内諾手続きに関する説明会」等について

この説明会は、本学のみならず4回生で教育実習を設定している大学では通常行われているものである。説明会では主に以下のことを確認する。

- ・教育実習は受け入れ校（主として母校）の好意によって行うことが可能になる。実習が出来ることは当然ではない。
- ・内諾問い合わせの時点から実習受け入れの可否が審査されていると認識すること。
- ・実習において授業に特化して考えると、ほとんどの場合、学習者の利益が損なわれている。要するに、生徒は実習生の下手な授業を我慢して受けている。それ故、実習生は精一杯誠意をもって実習を行わなければならない。
- ・教育実習を受け入れてもらえない場合もある。
- ・教育実習に関して、指定校制をとっている教育委員会の存在がある。その場合母校で実習を行えない。
- ・教育実習は大学と学校で社会的な契約を行う。したがって、受け入れ校と大学間で書面による契約を行う。身勝手な対応は許されない。

その他にも大切なこととして、

- ・実習中の生徒対応や個人情報の扱いに関わる基本的な注意
- ・SNSやネット上等も問題——気をつけなければならないこと・学生個々の過去のアップロード内容を含めて——

等を確認する。

学生の動きを見ていると、一定の覚悟を持たずに教育実習をするつもりであったと思われる学生は、この時点で履修を辞退していくように思われる。

表 1 年間の展開計画と課題の内容

	時期		授業の内容	課題の内容
ア	4 月	上旬から中旬	教育実習についての説明と内諾手続き＋年間の計画（案）の連絡	教育実習受け入れ校への連絡
イ	5 月	上旬	内諾用書類の配布と説明	教育実習受け入れ校への挨拶と事務手続き
ウ	5～6 月	随時	内諾を得るための相談や内諾手続き進捗状況の確認	
エ	7 月	中旬	次年度の教員採用試験に向けて（教職センターの資料の紹介／利用法についての連絡／教職進路指導員の紹介・内諾手続き進捗状況の確認）	
オ	8 月		夏期休業中の課題・後期の課題（講話）の原案作成	1. 憲法全文の読了 2. 憲法前文の書き写し 3. 生徒の質問への回答 4. 後期講話の原稿作成。
カ	9 月	中旬から下旬	後期の授業内容に関する具体的な説明（日程の確認を含む）	夏期休業中の課題提出
キ	10 月	上旬	基礎学力テスト	
ク	10～11 月	10 月中旬から 11 月中旬	1. 講話（発表と批評） 2. 基礎学力テストの不合格者に対する再試験	
ケ	12 月	下旬	龍谷大学校友会職域支部「教龍会」への参加	
コ	12 月	下旬	講話の補講（やり直し）	
サ	1 月	中旬	年度最終の授業——年度のまとめ——	

4 月当初の段階では、実際ほとんどの学生が「教育実習は卒業生であれば受け入れてもらえる」「教育実習に行っても教員にならなくても良い」と安易に考えている。まず、その考えを修正し、文書等やりとりや多くの条件をクリアしなければならないことを理解させる。近年、面接や小論文、あるいは実習教科のテストをして受け入れの可否を決定する学校も増えてきている状況、学校の小規模化に伴い受け入れ人数を制限していることから実習が断られるケースもあることを伝え、早く動き始めること、安易な気持ちでは受け入れ校の確保が難しいことを伝える。

また、恥ずかしい話だが、電話での確認の方法、あるいは訪問のする際の注意事項等のなかで社会的常識についても手取り足取り伝えておく必要がある。

大学としては、学生の受け入れ校確保に注力する必要がある。母校での実習が不可能となった場合の対応を考えておかなければならない。また、小学校免許状取得者希望者への実習期間の指示等についても確認しておく必要がある。

さて、文学部特有の事情がある。特に次の 2 点である。

- ・単独学部で事前指導を受ける学生数の多さ（S/T 比¹⁾が他学舎に比べて高い）
- ・宗教科の教育実習

前者については学部所属教員の人数の問題がある。文学部は、専任1名、特任1名体制で対応をしているが、他学舎に比べST比は非常に高い。さらに、教科も多種にわたる。ここ数年教職課程を履修する学生は減少気味だが、それでも事前指導では一人当たり70～80名ほどを担当している。過去には一人当たり100名程度を担当していた時期もあった²⁾。

後者に関しては、受け入れ校の確保が問題になる。真宗学科・仏教学科があり、また寺族³⁾の子弟が多く、宗教科の教員免許状取得希望者が少なからずいる。出身校に宗教科の授業があれば受け入れ校確保に問題は生じないのだが、例えば中・高等学校を公立学校で過ごし宗教科の免許状取得を希望した場合、受け入れ校を探さなければならない。基本的に龍谷大学付属平安中高等学校にお願いしているが、卒業生優先での受け入れであり、受け入れ人数にも上限があるため、受け入れが不可となる場合もある。その場合、学生や大学と縁のない受け入れ校確保を原則教職センターで行う必要が出てくる。また、宗派が異なると宗教行事における作法が異なるので関係校でも受け入れてもらえない場合もある。宗派が異なれば宗派に対応した受け入れ校を別途探す必要も出てくる。

後手を踏んで学生の不利益にならないよう、事務職員と連絡を取りながら、学生個々の手続きの進捗状況に目を配らせる必要がある。

さて、4月最初の説明会で最初に学生に伝えることを記して本章を終えることにする。

○大学の教職課程は、教員として教壇に立つために必要な教育を行うために設置されている。また、免許状発行に必要な単位認定を行うからは、教員として学生個々がそれに適しているか否かを判断せざるを得ない立場にある。シラバスにもそれは記載している。したがって、決して教員採用試験に合格するための学修を大学として準備しているものではない。

2. エ「次年度の教員採用試験に向けて」について

ちょうど、次年度4月採用の教員採用試験の1次選考が終わった頃である。教育実習を次年度に控える学生にこれから1年の過ごし方、現在求められている教員像や学校の実情、教職進路指導員⁴⁾の紹介と教員採用試験にむけての9月以降のスケジュール、教職センターの紹介等を行う。教職センターの紹介は年度当初にも行うが、所蔵図書・資料の紹介や教職センターの利用法等をここで詳しく話すことにしていた。

卒業年度（次年度4月以降）の多忙さについても理解させる、そこから逆算して今年度残りの期間でしなければならないことを伝える。また、9月より本格的に教職課程指導員による教員採用試験に向けた指導が始まることを周知する。さらに、前期の終了近くの時期に開催するため、後期の大まかな日程、夏期休業中の課題を提示する。

3. オ「夏期休業中の課題」・「後期の課題」

資料1に学生へ指示した各課題の内容を具体的に記す。なお、小稿では記載不要と思われる指示の一部を省略している。

資料1 夏期休業中の課題

（課題1）

◎後期に行う「模擬講話」の原稿を、話し言葉で別途配布する指定の用紙に記述し、提出。

- A. 講話の設定：「中学生、もしくは高校生を対象として、4分30秒程度の講話をする」（1分間で自分は何字くらい話せるのか、各自で確認しておくこと。）
- B. 講話のテーマは自由。ただし、「生徒にとって有益な話」であること。
- C. 講話の中でフロアの学生（生徒役）に発言を求めることはできない。
- D. 提出する原稿には「小見出し」をつける。
- E. ワープロ不可。指定の用紙（両面刷り）に、丁寧に直筆（手書き）で書く。（ペン書きが望ましい。鉛筆の場合は、濃く書くこと。）

（課題2）

- A. 「日本国憲法」を前文も含め、全て読む……レポートとしての提出は不要。
- B. 「日本国憲法 前文（全文）」と「日本国憲法 第九条（全文）」を手書きする。
- C. 与党は憲法改正・自衛隊の憲法明記の実現を強く考えています。国会における与野党の争点の一つにもなっています。この二つについては、日本の安全保障とともに私たちの生活にも大きな影響を与えると考えられています。

①平成以降の憲法改正に関わる議論について調べなさい。そして、何が問題になっているとあなたが捉えたか、論点を3点に絞り説明をなさい。

なお、調べた結果、憲法改正について「問題は一切ないとする立場の人」は、根拠を3点挙げてあなたの考えを述べて下さい。（以下、一部省略）

②中学3年生の生徒から下記の質問を受けました。生徒が理解できるように、話し言葉で質問に答えてください。

【質問】……「先生。憲法が変わったり、自衛隊が憲法で認められたりしたら、これから日本は戦争に巻き込まれて行くのでしょうか？ 難しくて分かりません。教えてください。」

- D. 「（課題2）C・①」を答えるにあたって、参考とした中心の資料を3点挙げなさい。なお、書籍・雑誌については「作者・書籍名・出版社名・発行年月日・可能であれば頁数」を、新聞資料については「新聞社名・発刊年月日・朝刊夕刊の別と記載面・署名記事である場合は筆者名」を必ず書きなさい。web上の資料の場合は、web名とURLと取得年月日等を下記の例に従って記すこと。

【記載例】・山本和子『世界平和とは』○○出版 2013/8/15 pp.79-105

・朝日新聞・2017/3/16・朝刊5面 山本和夫

・外務省（2018）「日本の安全保障と国際社会の平和と安定」

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/peace_b/（2020年7月31日取得）

（注）憲法改正や日本の安全保障について、賛成・反対等を含め、どのような立場を取るのかは皆さんの自由です。当然のことながら、いずれの立場でもそれを評価の対象にはしません。

以上

2020年度は、新型コロナ感染拡大の影響ですべてデータ（word）での提出となった。しかし通常（課題1）は、学生に必ず手書きによる課題作成を求めた。

コンピュータ（以下、PCと記す）を使用して文書を作成することが日常化している。しかし、担当者2名はともに手書きの重要性は変わっていないと考えている。特に学校教育の中では依然として重要だと考えている。HRでの板書、生徒や保護者の発言のメモ等、即座に教員の理解力や語彙力が反映されてくる。PCへの入力ではなく、実際に書くことの重要性を再認識させたいという思いもあり、手書きをさせていた。後に述べる「基礎学力テスト」においても同様の考え方のもとに行っていた。

さらに現状の社会は、早く答を出すことが「善」だと考えることが常識となっている。稿者の考え「書くことは、ゆっくり考えること。普段の思考のスピードを変えることによって、見えるものが違ってくる」ことを意識させ、それを実感・再認識させることも目的としている。

なお、提出場所は教職センターである。文学部は2回生までは深草学舎、3回生からは大宮学舎中心の学修になる。これも文学部特有の事情である。できるだけ教職センターに足を運ばせる機会を設けて、事務職員とも交流する機会を作りたいと考えている。時には履修指導の流れの中で事務職員の声かけで悩みを話し始めたり、その後も相談に来たりする学生も出てくる。事務職員からの学生に関する情報提供は、問題事象が起こった場合などに大きな助けになることも少なくない。教職員が協力して学生を育てていくことは、大学の教育機関としての重要な役目であると考えている。

4. カ「後期の授業展開に関する具体的な説明」について

日程の調整も含め、少々複雑な対応をしなければならない。その説明である。以下の5・6で詳細を記す。

5. キ「基礎学力テスト」について

テストの内容は、漢字の読み書きのテストである。50問出題する。正しく書く力がないと、PCで入力・変換した表記が正しいかどうかともわからないことになる。また、繰り返しになるが生徒の意見を即座に正しく板書できないことは、教科を問わず教員としての能力が問題視されることになる。保護者宛文書の作成にも問題が生じる。保護者宛文書の不備は、保護者との信頼関係構築にも悪影響を及ぼす。

出題内容に関しては、以下の3点を基準にしている。

- ・漢検準2級レベルが中心（一部、2級レベル）

- ・教育関係の語句、用語
- ・時事問題の語句

本試験，再試験，再々試験の流れは以下の通りである。

- ・本試験の合格最低点は 80 点以上。国語科の教員免許状取得希望者は 86 点以上。
- ・不合格者には，本試験の答案返却後 1 週間空けて，その後 2 週間以内に 2 回の再試験を受けるの機会を設ける。（本試験と同内容。合格最低点は，90 点以上）
- ・再試験に合格しなかった者には，その後 2 週間以内に，さらに 2 回の再々試験を受ける機会を設ける。（本試験と同内容。合格最低点は，96 点以上）
- ・全ての試験で得点が 50 点未満の学生は，別途書き直しの課題を提出。正しく書いていけばテストを受けられる。正しく書いていない場合は，さらに課題を与える。

先にも述べたが，学生の「書く」作業は PC への入力为主となっており，手で書く機会が失われている。漢字の基礎学力低下，時事問題への関心の薄さも稿者は問題視している。自己の興味関心に関わることしか知らない学生が少なからずいる。そのような学生に，「生徒の意見を正しく板書できることは基本であること」「社会で起こっていることや時事問題にも目を向けることの大切さを理解させること」「自分の基礎学力の現状を理解させること」等を認識させることを目的としている。

本試験における合格率は 5% 未満である。合格者が一人二人の時もあった。また，「龍」を正しく書けない学生が毎年 10% を優に越えている状況である。その他にも，テストの結果からは本学の学生についていろいろ考えさせる実情も浮かび上がる。字を丁寧に書くこと（上手下手ではない）への意識付けが必要な学生もいる。いずれも大きな問題であると思っている。

読むことに関しても，意識の低さあらわになる。本試験の答案返却時に学科専攻別の得点分布図，具体的な誤答・珍答・迷答例，採点者のコメントをつけた A3 両面印刷の文書を発行する。それを読めば，自分の解答の間違いが大抵修正できるように作成している。文書をしっかり読んでいる学生は，前半 2 回の再試験で合格していく。しかし，文書を読んでいない学生は同じ間違いを繰り返す。また，しっかり調べて修正しない，すなわち辞書を引くことを怠るため合格までに時間がかかる。ようやくそれに気づき，文書を真剣に読み出して辞書を引き，やっとのことで合格していく。

メールや web 上の短い文書を読み，直感的に必要な情報を取り出す能力に関して現代の学生は長けているようだが，文字とじっくり向き合って内容を理解しながら読む習慣が

不足しているように思われる。この課題では教員になるに当たり、それを自覚させ、重要性を身をもって確認させていく。

この基礎学力テストを通過できない場合は、「基礎学力の不足」を理由に教職課程履修を諦めてもらうことを考えてもらった。そのような学生が教壇に立てたとしても、本人にとって幸せかどうかには疑問符がつくと思っている。また、教壇に立ったあと、自らが生徒をテストや提出物で評価するのであれば自分にも厳しく対応してもらいたい。その感覚が乏しい学生には、教職に就くことを考え直す機会を設けるという意図もある。やり直し用紙のチェックを含めると、模擬授業の個別指導もあるなかで、仕事の合間を縫って一月強で優に400回を超える採点作業を行う。

さて、再試験・再々試験はすべて教職センターで行った。したがって、教職センターの事務職員には多大な協力をしていただいた。事務職員と学生との関わりは事務手続きのやりとりだけで終わることが通常だと思われるが、この協力によって学生の特性の理解や学生との人間関係を作ってもらうことにも役立っていた。事務職員からの情報で、学生の理解が深まることが少なくない。先にも述べたが、教員・事務員が協働して学生を育てるという大学の教育機関として役目が実現されている。卒業生が事務職員に会うことを目的に来学することがあることはその証明であろう。

6. ク「講話」について

実習形式の学修である。発表者は教壇に立ち黒板を背に生徒役の40～50名の学生の前で一人4分～4分30秒の「生徒のためになる話」（以下、「講話」と記す）をする。講話の原稿は夏期休業中に作成して9月に提出（表1のカ）。教員が内容や分量をチェックして、不十分なものは書き直しを求め、一定のレベルの水準まで準備をさせておく。

学生を担当者別に2クラスに分け、4回の講義を担当者別に開講日をずらして計8回⁵⁾金曜5講時に設定し、学生には講話発表回を含め3回の出席を義務づける。1回の授業では、15名前後の学生が発表を行う。フロアの学生は生徒役を担う。ただし、発表者の質問に返答することは出来ない。出席した学生には評価用紙（資料2）を渡し、発表者の講話に関して5つの観点で5段階の講話の評価をさせる。教員も評価を行う。各自が優秀と判断したものには、その理由を記入する。授業の最後に回収し、出席の確認にも用いる。

各授業の最後に教員はその回全体の講評を行う。講話の内容、目線や発声、立ち位置等についての一般的な注意、さらに学生の個に合わせた助言も行う。また、教員は毎回講話優秀者と補講（やり直し）出席者を決める。それぞれ一人とは限らない。また該当者がいない場合もある。4分未満で終わった場合は「失格⇒やり直し」となる。声が届かない、

教育実習事前指導の在り方について

発表内容に問題があり講話として評価が低い場合等も同様である。授業終了後は、多くの学生が個人的な批評を求めるため教員を教室に足止めすることが通例であった。

以前は教員2名が一つの教室で全学生の講話を評価していた。しかし、教学上の観点から授業のコマ換算が全学0.5に統一されたため⁶⁾、授業回数を減らす必要が生じた。2016年度以降は2グループに分けて、教員2名がそれぞれ60名前後の学生の講話に対応した。

教員二人で全員の講話を聞いていた頃は、学生個々の理解に大変役に立った。学生の性格ばかりではなく、育ってきた背景、背負っているもの、現時点での願いや思い、教員になることへの熱意、場合によっては公表すべきではないプライベートなこと——病歴や家庭状況等——まで講話を通して知ることもあった。学生数の多い授業であったが、学生理解が深まり、個別に丁寧な指導を行う手がかりを得られるよい機会でもあった。

この学修もまた、学生自身が教員としての「向き不向き」を判断する重要な機会になっていた。そして、それは教職課程履修料の徴収がなかった2017年度までの入学生に関して、学生自身が教職課程の履修継続の可否を最終学年を前にして、主体的に検討する機会でもあった。一方、講話を行うことで、教職課程履修の決意をあらたにしていく機会でもあった。

資料2

■2020年度■

模擬講義 X回 評価用紙

(5が優秀、3が普通として)

〇〇月△△日		学籍番号						
X	回目	氏	名					
番号	氏名	テーマ	評価	生徒を見て話せたか	声の大きさは適切か	話の構成は良かったか	話のテーマは良かったか	総合評価
①		強い心を持つ	中3	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
②		今の大切さ	高2	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
③		自信を持って今を生きる	高2	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
④		多くのいのちに変えられて	高1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑤		先生の言葉	中1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑥		規則正しい生活	中1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑦		金子みずぶさんの詩	高2	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑧		時間の大切さ	高1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑨		今後の将来のための話	高3	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑩		自分を見る	中1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑪		夏休みの気のゆるみ	中1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑫		部活動について	中1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑬		ノミの実験	中2	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑭		小林秀雄の批評	中3	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑮		一つの心	中1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑯		自分は誰なんだろう	高3	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
⑰				5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1

あなたが一番良かったと思った人の番号	理由①	
	②	
	③	

2018年度より本学教職課程は履修料を徴収しているため、上記に異なる意味がつけ加わった。世間の風潮からすると「履修料を払っているのであるから、教員として必要な力を大学で付けてもらうのは当然」とする立場で考える方もいることが予想される。大学としてもその責務を一定の所まで負うことは必要であるが、費用の面を含め、合理的な判断を学生と家庭が行う重要な機会になった。

7. コ「講話の補講（やり直し）」について

4回の授業のあと、講話の補講（やり直し）になった学生には再挑戦の機会を与える。補講の講話は教員二人で講話を聞く。改善が見られない場合は再々挑戦をしてもらう。ここまでやって十分な講話が出来ない場合は、事前指導段階で「否」の評価を付けなければならないが、ほとんどの場合自ら適切な判断を下して、教職課程の履修を辞めていく。

8. サ「年度最終の授業——まとめ——」について

前述のようにケ「龍谷大学校友会⁷⁾職域支部『教龍会』への参加」については、記載の順序を入れ替える。

さて、サ「年度最後の授業」の内容は以下の通りである。

- ・講話優秀者による模範講話
- ・当該年度の教員採用試験合格者による後輩へのアドバイス
- ・年度内の注意事項と次年度当初の予定

授業は教員採用試験合格者による後輩へのアドバイスから始める。文学部で教員免許状が取得できるすべての校種・教科が対応できるように人選する。なかには、このアドバイスをさせて欲しいと申し出る合格者もいた。

次に、7「講話」の優秀者に選ばれた10名前後の学生が100名を超える学生の前で講話を行う。学修の中で同じ体験をしてきた個々の学生が、良い講話・良い話し方・よい立ち居振る舞い・注意の配り方等を具体的に再確認できる貴重な場となった。

残念なことに2020年度についてはオンラインでの開講になったため、講話優秀者の模擬講話は実施できなかった。したがって後に記すアンケートの結果も、それを除いてのものである。

9. ケ「龍谷大学校友会職域支部『教龍会』への参加」について

龍谷大学校友会職域支部「教龍会」は、教員として活躍している文学部の卒業生を中心

に、小寺慶昭氏（本学名誉教授）の声を掛けによって創設された「教龍会」がその母体である。その後活動を全学に広げ、さらに本学校友会の一組織として活動を開始した際、その名称を組織名として引き継いだ。現在、「教龍会」役員を中心に本学の教員・事務職員が協力して運営に当たっている。

特に12月の「実践発表会・交流会」は、「教龍会」役員から“在学生の役に立てる活動を行い、そして交流を深めたい”という提案をしていただいたので、毎年学生との交流が可能になる内容で開催していただいている。2020年度も、オンラインでも実施していただいた。

文学部は一昨年度まで基本的に参加を事前指導のひとつに位置付けていた。目的を以下に述べる。

- ・現職教員による実践報告や教育活動報告等を聞き、教育現場の実情や教育活動に関する取り組みや工夫を知る機会にする。
- ・現職教員2～3名が10名から15名の学生を担当し、フリートークのグループセッションが行われる。そこで、学生は教職課程を履修する中で生じてきた疑問や悩み、教員になってからの不安等を話し、現職教員はそれぞれの立場から助言を行う。また教育現場の実情を知り、学生時代に身につけるべき力を理解したり、自分が卒業後教員を仕事としてやっていけるかどうかを判断したりする機会とする。

以上のように、1年間の事前指導を展開した。

文学部の事前指導にかかる学生の受け止め方や実感は、次章のアンケートの分析で確認していく。

Ⅲ 教育実習事前指導にかかるアンケートの検証

——学生の意識に触れながら——

2021年度に教育実習を行った文学部学生（院生及び科目等履修生を含む）104名を対象に、教育実習事前指導に関するアンケートを行った。2021年11月6日（土）から20日（土）に回答をお願いした。回答者数は100名で96.2%の高い回答率を得た。アンケートの内容及び結果は、資料3・資料4に示すとおりである。

Q1によれば、教員採用試験を受験した学生は6割足らずであるが、例年12月・1月に私学の採用試験を受験する学生が存在することから、およそ3分の2の学生が、実際に教育職に就く意思があったと思われる。この数字が高いか低いかは評価の分かれるところ

であろうが、担当者としては、教育実習指導のみならず教職課程のさまざまな科目を通して、教職の意義や心構えを厳しく指導してきた結果として、十分とは言えないまでも評価できると考える。

Q2～Q8は、教育実習に取り組む前年の3年生時における学びについて、個々の学生の振り返りの結果である。Q2は、教育実習の申し込みに関する説明会について問うている。Q3は公立学校教員採用試験の1年前となる7月の説明会について問うている。Q2 Q3のいずれにおいても、説明会の趣旨やねらい、内容について肯定的に捉えている学生がほとんどであった。教育実習受け入れ校の多くは各学生の母校であるが、卒業生であることの甘えや安直な態度を厳に慎み、申し込みから実習までの1年間にしっかり準備し、学校や生徒に不安や混乱をもたらさない心構えが求められる。

Q4は、①日本国憲法前文と第9条の書き写し、②自衛隊の存在に関わる生徒の質問の回答に関する問いである。また、Q5は漢字テストであり、合格者は80%（国語科免許取得希望者は86%）以上の正解が求められ、不合格者には再試験も課せられる。Q4①において、「意義を感じる」「どちらかと言えば意義を感じる」の合計は6割余りに止まっているのに対し、Q4②では「意義を感じる」「どちらかと言えば意義を感じる」の合計は9割余りと4択回答の設問で最も高い。このことは、書き写しという単純な作業には意義を見出しがたいが、生徒の質問に対する回答はさまざまな背景や影響を勘案した教育的配慮が求められ、教育的重要性が大きいと判断する学生が多いと考えられる。

Q5で問うている漢字テストについては、ほとんどの学生が例年、再試験によって何とか合格している現実の割には、評価が高い。誤答の多くは無解答か漢字の誤用である。Q6は講話に関する問いで、①は選択回答、②は身に付いたと思われる力について自由記述で回答してもらった。4分半程度の講話は、テーマ設定、内容、構成、パフォーマンス等さまざまな要素が求められ、9割足らずの学生がその意義を見出している。

Q7は、1月に実施する事前指導の締めくくりとなる授業について問うている。講話の優秀発表と4月から教壇に立つ教員採用試験合格者の体験談を主な内容としている。ただし、2020年度はコロナウィルス感染拡大の影響で前者を行うことが出来なかった。その中で8割余りの学生が「意義を感じる」「どちらかと言えば意義を感じる」と回答したが、「意義を感じる」の比率は3割と低い。この点について、採用試験の準備には時期尚早と考えている学生がいるかもしれないが、願書提出や試験はかなり早まっている現実を理解させる必要がある。

Q6②及びQ8は自由記述である。両者をあわせて、資料4においていくつかを紹介した。講話の時間では概ね、生徒に話す、伝えるなどの方法や技能等について、自分と他の

学生の発表から多くを学んだように思われる。また、Q8では、教育実習で役に立ったこと、不安に感じたことなどが記されており、個々の学生によって多様な状況があったことが窺える。

講義形式となる4月と7月の説明会はほぼ9割の支持を得ているが、夏期休暇中の課題である憲法前文の書き写し、講話の原稿作成、漢字テスト等の取り組みでは、学生の評価は一様ではない。書き写しや漢字テストは、作業と暗記をとまなう学修形態であり、大学生の学びには適さないという回答があった。現実には学生の中には先輩から漢字テストの過去問を入手し、テスト前に一生懸命覚えたという者もいたそうである。しかし、事前指導のねらいは、特定の漢字や資料を暗記させるのではなく、教員に求められる教養であり、身に付けるべき教育的視点にある。言わば知識の獲得のみを目的とした即物的な学力の捉え方ではなく、見方考え方の修得に向けた学びの定着であろう。教職を目指す学生には、覚えることのみを目的としない教育観、学力観を身に付けてもらいたい。また、それを深く理解してもらいたい。他方で講話の時間においては、多くの学生がその取り組みの意義を自らの気づきや発見によって見出ししていたことを、アンケートから再確認することができた。

資料3 アンケート結果1（選択回答）

- Q1 あなたは今年度（2022年度4月採用）の教員採用試験（公立私学を問わない）を受験しましたか
1. 受験した 2. 受験しなかった 〈結果〉 1. 59% 2. 41%
- Q2 2020年4月～5月に実施した2回の「教育実習内諾の説明会」について、次から最も当てはまる事項を1つ符号で答えてください
1. わかりやすかった 2. どちらかと言えば、わかりやすかった
3. どちらかと言えば、わかりにくかった 4. わかりにくかった
〈結果〉 1. 48% 2. 42% 3. 8% 4. 2%
- Q3 2020年7月に実施した「期待される教員像／採用試験までの1年間の過ごし方」の説明会について、次から最も当てはまる事項を1つ符号で答えてください
1. 役に立った 2. どちらかと言えば、役に立った
3. どちらかと言えば、役に立たなかった 4. 役に立たなかった
〈結果〉 1. 31% 2. 58% 3. 8% 4. 3%
- Q4 2020年夏期休業中の課題
① 「日本国憲法を読む／日本国憲法前文・第9条の書き写し」課題
1. 意義を感じている 2. どちらかと言えば、意義を感じている
3. どちらかと言えば、意義を感じていない 4. 意義を感じない
〈結果〉 1. 29% 2. 33% 3. 26% 4. 12%
- ② 「『先生。憲法が変わったり、自衛隊が憲法で認められたりしたら、これから日本は戦争に巻き込まれて行くのでしょうか？ 難しく分かりません。教えてください。』という生徒の問いかけへの対応を話し言葉で記す」課題
1. 意義を感じている 2. どちらかと言えば、意義を感じている

3. どちらかと言えば、意義を感じていない 4. 意義を感じない

〈結果〉1. 62% 2. 32% 3. 4% 4. 2%

Q5 2020年3回生9月～11月に実施した「基礎学力テスト（漢字テスト：追試を含む）」について、次から最も当てはまる事項を1つ符号で答えてください

1. 意義を感じている 2. どちらかと言えば、意義を感じている

3. どちらかと言えば、意義を感じていない 4. 意義を感じない

〈結果〉1. 45% 2. 32% 3. 16% 4. 7%

Q6 2020年10月～12月に実施した「講話」について、以下の①②に答えてください

①「講話」について、次から最も当てはまる事項を1つ符号で答えてください

1. 意義を感じている 2. どちらかと言えば、意義を感じている

3. どちらかと言えば、意義を感じていない 4. 意義を感じない

〈結果〉1. 56% 2. 33% 3. 5% 4. 6%

②「講話」でどんな力が身に付いたと思いましたか。記入してください（自由記述）

〈結果〉別掲、資料4

Q7 2021年1月に実施した「教員採用試験の合格者からのメッセージ、及び優秀講話者発表会（後者については中止）」について、次から最も当てはまる事項を1つ符号で答えてください

1. 意義を感じている 2. どちらかと言えば、意義を感じている

3. どちらかと言えば、意義を感じていない 4. 意義を感じない

〈結果〉1. 30% 2. 53% 3. 12% 4. 5%

Q8 Q2～Q7で示した教育実習前年度に展開した学修内容について、個人的な意見や感想を含めて気の付いた点を記入してください（自由記述）

〈結果〉別掲、資料4

資料4 アンケート結果2（自由記述：抜粋）

Q6 講話で身に付いた力

◆人前に立って堂々と話すことが教員の必須能力だと思っており、模擬授業よりも短い時間ではあるが、自分の言葉で話をするという機会によって現在自分の話す能力を測ることができ、話し方や話の強弱の付け方を身につけることができた。

◆多くの人に自分が考えていること、伝えたいことをしっかりと伝えるための話し方の工夫について考える機会になったと思いました。

◆一言で言えば、「人前でも緊張していることを悟られないようにする力」だと思う。また、人前で話す練習をできたので、「人に伝える」ということを改めて意識するきっかけになった。教育実習で他の実習生が話せない場面を多く見たので、講話で練習できてとても良かったと感じた。

◆対象生徒に何を感じてほしいのか、考えてほしいのかを自分なりに追求し、対象生徒が理解しやすい言葉遣いや話し方をするを意識するという、今後教壇に立つ際に最も求められると考える能力。

◆不特定多数の人に対して自分が伝えたいことをどのようにして伝えるかについてその話の構成や内容、その話の伝え方についてどうすれば伝わりやすいかという力が身についたと考えている。

◆講話で子どもたちにどのようなことを感じてほしいのか、また自分が伝えたいメッセージは何なのかを考える大事さを学んだ。また、子どもが興味、関心を持ってもらい集中して聞いてもらえるように話し方や時間なども工夫する必要であると感じた。

◆教員とは何であるのか、自らにはどのような力が今後必要であったのか確認することができた。

◆私は大勢の前にして話す力が身についたと考える。私自身、あまり大勢の人の前で話す経験が、それまでなかったため、教育実習前に良い練習になった。また講話という、生徒たちに伝えたい内容を、自分なりの言葉で声に出して表現することも、「講話」という機会がなければ、経験できなかったことであった。また、他の人の講話を聴き、内容はもちろん、伝え方や話し方など、参考になるものも多くあった。こうしたことから、私は「講話」を通じて、大勢の人を前にして話す力が身についたと考える。

- ◆伝わるように話すためにどのように話を組み立てるのかと考える力。大勢の人の前で話す経験がはじめてであったので、話せたという自信に繋がりました。
- ◆教育実習に行く前の準備として、大勢の人の前でお話をする機会と経験を得ることができました。また、実際に教壇に立って話す際のスピードや身振り手振りなどやってみることで理解を深めることができました。
- ◆人の心に働きかけようとする時の話し方は、普段の話し方と意識するところが全然違うのだなと感じた。声の抑揚や、身振り手振りを大胆につけると、以前は恥ずかしく思っていたが、講話の経験を経て、自信をもってできるようになった。一番身についたものは度胸かもしれない。
- ◆人に正確に伝えるには、どのような声の大きさでどのような話し方をすれば良いのか、どのような構成で話せば良いのかということを考える力がついたと思います。また、大きい教室で前に立って話せたことは良い機会であったと思います。
- ◆一度大勢の前で、生徒を想定して講話をしていたことで、採用試験の面接で「生徒に向けて話をしてください」という問題が出たときにも落ち着いて取り組むことができた。
- ◆話すスピード、抑揚の付け方など、話す時に一方的に話してしまいがちであるということを再認識できた。その点を踏まえて教育実習に活かすことができた。
- ◆何を伝えたいのか、そのためにはどのような話し方をすれば良いのかということを実際にやってみて難しかったが、とても意義のある事だったと思う。これから社会人として必要な力だと思うので、やってよかった。
- ◆大学生の前ではなした講話は、事前に内容を考えて話すことができたが、実際実習では常に話す機会があった。話の引き出しや、話の流れなどを考えるきっかけになったと感じる。また、他の人の講話を聞くことができ、「その話いいな」「この話の筋道はわかりやすい」と視野を広げることができた。
- ◆自分が生徒にこれだけは伝えたいと思う内容を頭の中で整理する良い機会となり、自分の引き出しが出来上がった。また、他の学生の話の内容、話の構成、話し方を見て、自分が前で話すときの見せ方、聞かせ方を工夫する力が付いたと思う。

Q8 意見や感想

- ◆スケジュール的にはハードに感じることもあったが、結局やっていて良かったと思います。教育実習で全然何もできないなどと苦労することはなかったので、尚更そう思います。漢字テストと講話はかなり記憶に残っていますし、これからも実施するべきだろうと思います。特に、講話は教員をしていくなら、必ずすることがあると思うので、学生のうちにこういう形でやっておくべきだと思います。
- ◆教員採用試験の合格者からのメッセージで、採用試験に合格したけれど一般企業に就職する方の話を聞いて、しっかりと勉強した上で自分の将来についてきちんと考えられているのだと感じ、強い意志を感じました。教育実習前に、定期的に「教師」という仕事を意識する良いきっかけになったと思います。
- ◆漢字テストは、個人的に免除があってもいいと感じている。例えば、漢字能力検定二級以上の取得をしている者は免除などである。教育実習の内諾までの説明は、何がいつ行われるのか、その時何をすべきかが明確に示されていたのでわかりやすかった。ただ、教育実習先では、他の大学の実習方法と異なる点が多々あったので、龍谷大学の方法でいいのか迷って困る場面はあった。総じて今までの指導は、手厚く丁寧な説明があって良かったと思う。
- ◆教育実習中、指導教員の方にその日のホームルームで大学生活について話すことを依頼された。事前指導の講話で話す内容を考えること、実際に前に立って話すことを経験していたから、落ち着いて対応することができた。そのため、事前指導、特に講話はとても意義のあるものだったと思う。
- ◆様々な角度から教職について学ぶ機会があったことはよかったが、その内容が実際に役立ったかどうかについては、今の段階では何とも言えない。特に漢字テストに関しては、私の周りの人たちは前年度受けた人から過去問をもらい、それを対策することに必死になっていたため、先生方の意図が死んでしまっているように感じた。講話に関しては、優秀者の発表会がコロナの影響で中止になってしまったのが少し残念であった。

- ◆教育実習や教員採用試験に役立つものが多く、実践されていた学修内容は適切であるとともに、受講生のためなるものばかりであると考えてる。
- ◆教育実習前年度に展開された学修を通して、教育実習に対しての気持ちや教師になりたいという気持ちのモチベーションが向上した。そのため、こうした機会の必要性を強く感じた。
- ◆こういった講義があったから、有意義な教育実習が送れたのかなと思います。また、合格者からのメッセージなどから、教採の勉強を始める人もいると思いました。
- ◆たとえ意味の無いことのように見えても、将来的に役立つことは多々あり、教員はそのチャンスを逃してはならないと思う。そして、教える際にはその知識の使う機会、使い方まで伝えてようやく意義のある教養になりえるのだと考えた。
- ◆講話など、大人数で受ける講義が多かったため、教壇に立つというイメージがあまりつかないまま教育実習に臨んでしまった。1クラス40人ほどのグループごとで講義を受けたいが、大学では難しいだろうと思う。
- ◆他学科の学生と交流する機会にもなり、さまざまな考え方に触れることで、教員になるという意識と覚悟をより強く持つことができた。
- ◆やはり、基本的にはどの学修も教育実習に行っても必要なことばかりだったと改めて実感できた。特に漢字は聞かれることや板書に書く時に分からないと恥ずかしい思いをしてしまうのでやっていて良かったと感じた。
- ◆十分に教職を学修する上で役に立ったと感じている。昨年度はコロナの影響も特に強くこれまでのように行われていなかったかもしれませんが、自分としては教職が単位一辺倒になりがちな時期にこうして実践的なものを行ってくださるのは知識としてはもちろんですが、意識の上でありがたかったと感じています。
- ◆講話は教育実習で役に立ったと思います。日本国憲法の書き写しは、読むことには意義を感じますが、書き写すのはしんどいだけでした。
- ◆先生方が課した課題についての意図は理解できているつもりだが、その意図に対するアプローチの方法がもう少し良い方法があるのではないかと感じた。例えば、基礎学力の漢字テストではなく、実際の教員採用試験の過去問の一部を行う方がより有意義であると思うし、講話の時間制限についても、かなりシビアに時間制限を設けられていたため、話の内容に力を入れるよりも時間のやりくりを意識がとられ、本来の目的に合っていないと感じた。合格者の方からのメッセージについては、私個人の意見として、合格者の方の話を聞いても意味がないと感じているので意義を感じないと回答したが、他の方にとっては意義のあるものであると思うので、今後とも続けていってほしいと感じた。
- ◆教育実習以前に憲法や講話など学んでおくことで子どもにどこを学ばせ、伸ばしていくのかをよく考えるようになり、接し方や授業の仕方にも考え、工夫していこうとする姿勢に変わっていったので重要なものであると感じた。
- ◆実際に実習に行くと、思っていたよりも実践することができなかった。もっと実践的な活動が必要であるかもしれない。
- ◆段階を踏みながら教育実習に臨めたと思うが、正直なところ実習校や指導教員次第だと感じている。
- ◆日本国憲法を読み、それを書き写したことが役に立ったとは思わない。
- ◆漢字テストに関しては、意義はあったように感じる。いつの間にか忘れてしまっていた漢字もあり、気が引き締まる感覚があったことを覚えている。その一方で、少々問題として難しいと感じた。私自身、それなりに勉強して臨んだが、一発合格には届かなかった。「漢検*級相当」くらいの説明書きがあった方が、勉強しやすかったように感じる。
- ◆今何をすべきなのかが分かった。また、モチベーションを維持する事ができた。集まったことで共に頑張る仲間と出会えた。
- ◆学修内容については非常に意義のあるものが沢山あると感じます。それは教育実習の現場だけでなく、社会全てに通用するものだと思います。説明会に関しては説明を聞くとう理解することができますが、プリントで再度確認する際に、やはりプリントでは重要事項の見落としや全体をみて理解しづらい点がありました。

- ◆先生方が体験談を述べていただいて自分たちも教員がどのような世界なのかを想像しやすかった。
- ◆夏期休業中の課題2 憲法改正における生徒からの質問のような、生徒から聞かれるであろうこと、またその質問には凄く意義があると思ってもらえるような返答や議論を展開できるよう準備しておくことは非常に大事だなと思いました。それから自分の中でも「なぜ勉強しないといけないのか？」などあらゆる質問に自分なりにそして教師として応えられるよう心がけるようになりました。講義内で終わらせるのではなく、自分で再考することの大切さを改めて感じました。
- ◆漢字は一般的な教養としては必要だとは思いますが、テストで測るようなものでも無いと思います。それならもっと講話だったら、各教科交流し合って模擬授業を行う方がいいのではないかと思います。
- ◆合格体験記はあの時期にやっても意味がないかもしれない。先輩方の言っていることが、あまり身近に感じられなかったし、何を言っているのかすら、あんまり分からなかった。もっと教職課程が進んで、教採の対策を進めていって、それから聞いた方がもっとありがたく聞けると思う。
- ◆説明会によって、教育実習を受け入れて頂いたことへの感謝を持つようになった。そのおかげで有意義な教育実習にすることができた。また講話やテストをしたことで「自分はまだまだである」と、教育実習前年度で気付けたことは良かった。
- ◆最終的には教員にならない道を選んだが、これまで学修した内容が無駄になるとは思わないし、むしろ非常に新鮮なことばかりで楽しく受講することができた。
- ◆やっている最中は、めんどくさく感じたりすることもありましたが、全てが終わってみて、これからの人生で役立つことになるかなと思っています。
- ◆夏期課題で日本国憲法の前文と9条の書き写しがありましたが、日本国憲法に加えて、教育基本法の前文を写す課題などもあってはどうかと思いました。特に教採の勉強をしていく中で、どの自治体も教育基本法の前文の出題が非常に多く、重視しているのだと感じました。
- ◆コロナ禍で説明会等がオンラインになってしまったので、正しく理解できているか不安なことが多かった。しかし友達と助け合いながら教育実習の準備をすることができて無事に終えることができた。
- ◆教採合格者からのメッセージでは、先輩方が教採に向けてどのような取り組みをしていたのかということ先輩方の口から聞くことができて大変参考になった。自分がこれからどのような行動を取っていくのか、どのような計画をしていけばよいのかということなどについて不安がある時期だったが、その先輩方のお話を聞いて不安要素が減った。また、講話では改めて生徒など大勢に向けて話をするの大変さを知ったと同時に、どのような部分に気を付けなければいけないのかなど、多くのことを学ぶことができたためこれから活かしていける有意義なものであったと感じる。そして教育実習内諾の説明会は、レジュメを用いながらとても細かく丁寧な説明がされていたため、分からないことがほとんど無かったように感じる。私たちに分かりやすいように丁寧に準備をしてくださったことが伝わってきた。
- ◆学ぶことや知るべきことが含まれてはいた活動内容であったと思います。不満が無いわけではありませんが、価値や意義がないということも無いと思っています。
- ◆実習前の準備として、非常に良い準備材料となったと、実習後に感じた。しかし、実習前はやはり不安があった為、さらに詳細を語られる説明会や講話があると少し安心するのではないかと考えた。オンライン授業が多くあった為、理解に苦しむ場面がいくつかあった。やはりできる限り対面での授業をして欲しいと思った。
- ◆日本国憲法の書き写しの意義がよくわからなかった。
- ◆コロナ禍において ICT 化が進み、授業はリモートでやるが多かったですが、対面で行われた講話やリモートでの説明会などで、対面における細かいニュアンスの伝えやすさやリモートの利便性など、それぞれの良さやこれからの課題も見つかりました。
- ◆個人的に、講話が一番印象に残っています。自分はもちろん、他の人のお話も覚えています。みんなそれぞれ伝わりやすいように工夫して、黒板を使ったり、身振り手振りを意識したり、声の抑揚を意識したり、本当に面白くて楽しかったです。一つのドラマを見ているようでした。授業を行う際も、ドラマのように、生徒をこちらへ引き込むことが大切だろう、と感じました。
- ◆学修を通して、教育課程履修生の「教員として人と接する時の意識」という部分は大きく変化した人が多いのではないかなと思う。コロナ禍により制限された部分かもしれないが、他の履修生と意見交換が

できる場がもっとあればよかったのではないかと思います。

◆教育実習の前段階でこれだけ多くのことをやることに少々疑問を持っていましたが、今振り返ると全て必要な作業であったというふうに思っています。

◆全ての説明会、わかりやすくして時間もなるべく短くしてくれてとても苦痛なく参加することができました。課題や漢字テストにおいても全て必要最低限でできないといけない内容が自分は忘れていたりしていたのでとても有難かったです。そして、教育採用試験の合格者の先輩方の話もアドバイスが含まれていて勉強になりました。

◆私たちが3回生になった途端にコロナが感染爆発し、先生方もオンラインでの対応などとても大変だったと思います。ありがとうございます。オンラインは初めの頃は慣れないことが多いと感じていましたが、学校現場でパソコンは必ず使うので、良い練習になったと思っています。

◆説明会などは内容の理解に時間がかかり、学生が置いてきぼりになるところがあったと思う。もう少し丁寧に説明した方が良いと感じた。

◆「将来教員になるんだから」ということで、事務手続きも含め強いプレッシャーを感じながらも乗り越えてきたと思います。特に私は講話の準備に力を入れて、多くの人の前で話す経験をさせていただき、自分が生徒に本当に伝えたいことは何なのかが分かって良かったと思います。

◆全体的に教職に就くにあたって、必要な知識や技術を得られたと感じている。特に合格者からのメッセージはなぜ教員を目指すことになったのかを聞いて、進路選択において重要な役割を持っていたと思う。また講話に関しても、緊張感があったものの、教師になれば人の前に立つことなど日常茶飯事であるということを実感し、教育実習前に良い経験ができたと感じる。

◆基礎学力テスト（漢字テスト）や模擬講話など、他のやり方ではなくこのやり方のほうが良いのは何故か、どんな意義があるのか、教職指導の先生方で話し合いをされた上でやるのが良いと思う。

◆2020年夏期休業中の課題をしたことにより、憲法のことや法律、政治についてももっと勉強しなければいけないと思った。また、現在の学校の問題や生徒との関わり方、言葉遣いなども学んだことが多く、もっと勉強しなければいけないと思った。講話などを通して現在の教育現場の良い点や改善点を授業以外で勉強するようになった。教育に関するニュースにもとても敏感になった。

Ⅳ おわりに

小稿で取り上げた文学部の事前指導の内容は、教職課程の現行法に基づく課程への移行や他学部の教職課程カリキュラムとの整合性を担保する観点から、2020年度をもって終了した。また、教職科目において自由選択として設置されていた各教科の教科教育研究も、2022年度から全学部で廃止となる。文学部教職課程は他の学部と異なり、各学科各専攻の専門性を踏まえ、国語、社会、地理歴史、公民、外国語、宗教の教員免許状の取得を目指すカリキュラムとなっている。一般的に教育課程は校種を問わず、地域の状況や学生・生徒の実態を踏まえて編成される。今後も文学部の教職課程もまた、学部学科専攻の特色に配慮した学びが実現するよう努めていきたい。

文学部の事前指導は、準備段階から資料作成、採点、日程調整、指導の内容や方法、評価等、仔細は文学部担当の専任教員を中心として特任教員とともに進められ、大宮教職センターがその教育をサポートしてきた。これらの学修は教職を目指す学生にとって気づきや自覚をとまなう貴重な機会であった。同時に、教員にとっても教員養成を担うに必要な

多くの学びを学生から得ることができた。

最後になったが、アンケートへの回答を含め、教職課程科目履修に真摯に取り組んできた学生の皆さんに、この場をお借りして感謝を申し上げたい。

【注】

- 1) 一つの授業で教員一人あたりが担当する学生数
- 2) この10年ほどの学生数であるが、以前はさらに多い時期もあった。150名以上と聞いている。
- 3) 日本の仏教寺院における住職の家族のこと。
- 4) 2019年度から配置した。主として、教員採用試験に向けた対応を担う。配置以前は、学生に自主ゼミを組織させ、そこに教職課程の教員が関わっていった。また、2月、3月には採用試験対策の集中講座を行っていた。
- 5) 公欠等で、3回の出席を配当クラスで充足できない場合の対応である。
- 6) 2015年度までは、開講時間数の関係から文学部の教員のみ事前指導のコマ換算が「1」であった。
- 7) 本学校友会は、一般的には同窓会に当たるものである。また、職域支部とは、会社や地方自治体別等に組織されるものである。「教龍会」は、「学校教員・学校教員を目指す者、および教育に関わる仕事をしている者」という枠組みで卒業生（主として教員）により組織されるものである。